

7/21 『科学は視る:そこから始まる』 飯島登男 先生 の講義を受けて

カーボンナノチューブ 観察から始まる ナノサイエンス 観察には手段(ツール)が必要

授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
学問の面白さを知る	飯島登男	7月21日(火)	
学生番号	学部・学科	学年	氏名
04080122-5	系経済学部 系経済学科	2年	丹下莉月

自分の
存在(なか)
人の中
異化

新しい
概念

この講義を受けて、ナノサイエンスについて知識を深めることができたのはもちろんだが、それよりも飯島先生の「学問へ興味が深まる」にとて大きく感銘を受けた。講義の中で先生がおっしゃっていた「重たく」というキーワードが特に印象に残っている。自分自身の興味も「重たく」ことへの原動力となり、様々な人との出会いがあり、つながりを形成しながら自分の研究を進めていく。その過程では目に見えない部分での苦労や困難もあったはずなのに、壇上で話していた先生はとても楽々であった。もう一つに残った言葉、それは「偶然は準備をした者にもたらされる」というものだ。「偶然」というと、あたかも不意に空から降ってきたおいしいもののように捉えていた私にとって、裏づけのある「偶然」というのは新しい概念であった。研究者の方は、未知なる発見をただ追いかけるのではなく、1つ1つの観察を積み重ねて、その結果新たな発見を手にするのだと感じた。

私は文系であり、顕微鏡など、形のある道具を用いて何かを観察する機会はない。しかし、形はないにしても学んだ「理論」を道具として現実の社会問題を観察と分析できるのではないか、と思う。このような思いを私に抱かせてくれた今回の講義に大いに感謝したい。